

② シンポジウムの報告

パネルディスカッション

学生の発表を受けて、パネリストの皆様からご意見をいただきました。最後に、次の世代へつなげる・つなげるまちを目指した、まちづくりの方向性を共有しました。

「コンパクトで暮らしやすい都市」について

石塚氏：全ての施設を市民の身近な場所に同じように配置することは難しい。地域ごとの特性を踏まえ、階層性を設けて立地することが必要。

新崎氏：人口減少だからではなく、かごしまが成長・発展するためにコンパクト化するという前向きなストーリーが理想。

江口氏：施設の誘導はよほどのインセンティブがないと難しい。これを機に、学生の意見を恒常的に取り入れる機会やセクションなど、学生と行政が連携する新しい取組ができると良い。

「誰もが快適で移動しやすい都市」について

宮之原氏：バスの利用の仕方や行先案内が不案内で使いづらいと感じており、誰もが使いやすいようバス停などの環境を整えば良い。また市街地から離れた場所でも一定の運行本数が確保できると生活しやすい。

石塚氏：バスのあり方やシステムを中心部と郊外部で分けたほうが考えやすい。中心部ではパークアンドライド、郊外部ではニーズと採算性を踏まえたデマンド型タクシーやコミュニティバスの利便性向上が考えられる。

江口氏：行政が提供するサービスと住民主体の取組とを両輪で考える必要がある。郊外部ではエリアごとに住民主体で路線を決め、活用する仕組みを考えると生活の質が維持・向上できるのではないかな。

「人・自然・歴史・文化を生かした都市」について

新崎氏：地域に愛着を持って発信できる人材が増えていくと、行政だけではなく、市民もまちづくりで活躍できるのではないかな。そのために、幼少期からの教育や地域を知る機会を増やすことが重要。また、歴史・文化・自然をストーリーとして見える化し、伝えていくことが大切。

宮之原氏：観光ガイドで課題となるのは、多様な言語に対応できる人材の確保と多言語化された案内である。また、かごしまの地元ならではの情報を若者が中心になって SNS で発信していくと良い。

総括

西村氏：いろいろなまちで多くの人が様々な工夫を凝らしてまちづくりを頑張っている。各地にある先進的な事例の組み合わせがかごしまに活用できるかを考えることやかごしまの強みを生かすことをディスカッションしながら進めることが重要である。そうすることで市民・行政がリアリティを持って、継続的なまちづくりの取組ができるのではないかな。

■舞台上の様子



○コーディネーター

西村幸夫 教授

○パネリスト

石塚 孔信
(鹿児島大学法文学部 教授)

新崎 恭史
(㈱日本政策投資銀行 南九州支店長)

江口 まさよ
(鹿児島青年会議所 第65代理事長)

宮之原 明子
(㈱清友 代表取締役)

■ワークショップ結果の展示



かごしま都市マスタープラン

Kagoshima Urban Planning Master Plan News Letter

ニュースレター Vol. 3 2020.3

Topic

シンポジウムを開催し、 かごしまの未来のまちづくりを 市民の皆さまと共有しました。

市民の皆さまにまちづくりを考えるきっかけとしていただくためのシンポジウムを1月に開催しました。

その中で、学生から昨年11月、12月のワークショップで話し合われた「かごしまの魅力を生かしたまちづくりへのアイデア」を3つの視点（テーマ）から発表してもらい、西村先生やパネリストとともに、かごしまの未来のまちづくりを考えました。

多くの方々にご参加いただき、ありがとうございました。

鹿児島市 都市計画課

INDEX

① ワークショップの報告

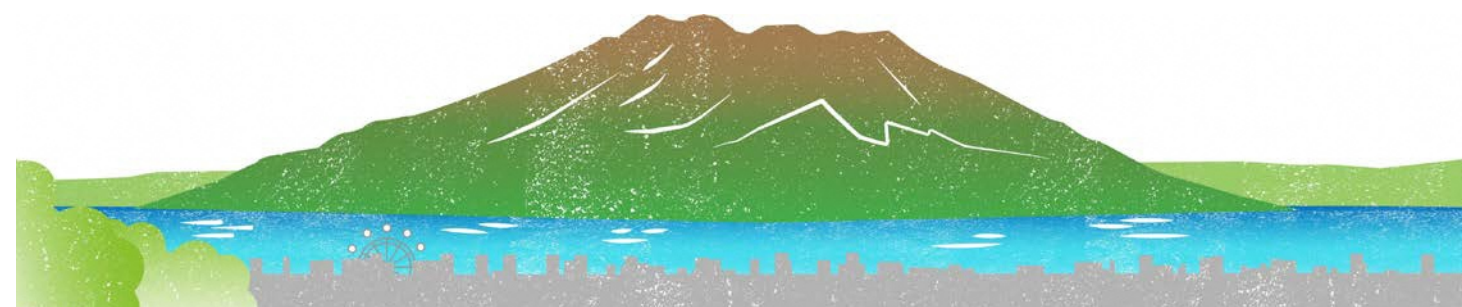
② シンポジウムの報告

鹿児島市役所
建設局 都市計画部 都市計画課

〒892-8677
鹿児島市山下町11-1
電話番号：099-216-1378
ファクス：099-216-1398

✓ 詳しくは、
こちらをご覧ください

鹿児島市ホームページ
<http://www.city.kagoshima.lg.jp/>

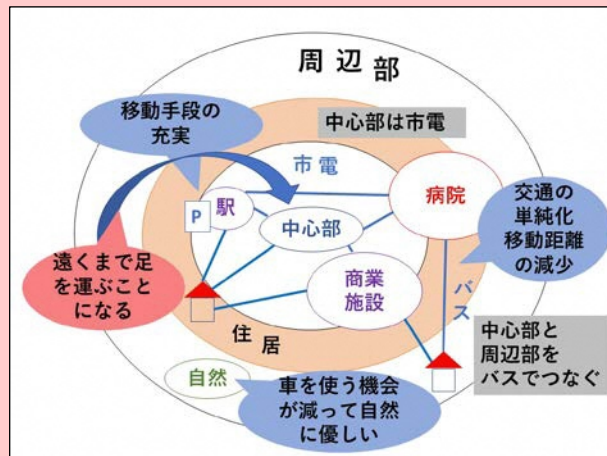


① ワークショップの報告 11/22 (金)・11/28 (木)・12/17 (火) 開催

全3回のワークショップを実施し、まちづくりのアイデアをグループごとに考えました。

グループ1：コンパクトで暮らしやすい都市

- ▷中心部は便利で生活しやすいが、周辺部では病院や買い物等に困るのではないかな。
- ▷同心円状に広がるグラデーション構造のまちのイメージ図で年代ごとに必要な都市機能の配置を提案。
- ▷あわせて周辺部に住む人やそこにある地域資源を活用するためにも、中心部と周辺部をつなぐ公共交通の必要性を確認。



■学生が作成したスライドの一部

グループ2：誰もが快適で移動しやすい都市

- ▷中心部と郊外部の公共交通の利便性の差や、バス停・バス路線の使いにくさが課題。
- ▷「子どもでも高齢者でも、誰もが気軽に楽しく動ける都市」を目指した具体的な改善内容を検討。
- ▷将来の新技术を用いた次世代モビリティを想定した歩行空間の使い方などを提案。



子どもでも高齢者でも、
誰もが気軽に楽しく動ける都市の実現



■学生が作成したスライドの一部

グループ3：人・自然・歴史・文化を生かした都市

- ▷かごしまの「人のあたたかさ」は大きな魅力。
- ▷定住・移住したいと思われるまちの実現に向け、地元への興味や愛着を醸成させる取組や国内外の観光客への魅力発信の仕方などの具体的な方法を検討。
- ▷今ある魅力を「人」と結び付けて活用することや、地域の声をまちづくりに反映できる制度の導入を提案。



子ども・親向け(歴史を生かしたまち)



<http://blog.livedoor.jp/yudaho/archives/54349473.html>

史跡や歴史に触れる→地元への興味・愛着アップ

■学生が作成したスライドの一部

② シンポジウムの報告 1/11 (土) 開催

都市マスタープラン策定に向けたシンポジウム「かごしまの 未来のまちづくりを とともに描く」を開催しました。

基調講演 「かごしまの魅力を生かしたまちづくり」

神戸芸術工科大学
西村幸夫 教授

西村教授に鹿児島市の歴史を踏まえたまちの変遷や魅力について、ご講演いただきました。

- ▷鹿児島市は他の城下町に比べ長い歴史を持ち、少しずつつくられた経緯があるため、まち全体が様々なパーツに分かれていることが特色である。
- ▷650 年かけてまちが北から南へ拡大してきたため、各時代の中心がそれぞれ存在していた。都市が変化した歴史がまちの各所に見られるのは興味深く、魅力的である。
- ▷市電軌道敷の芝生は、景観・ヒートアイランド対策・市電の音の軽減と3重のメリットがあり、まちづくりの貴重な資源である。
- ▷景観計画で建物の高さを規制し、城山展望台からの眺望を守ったことは市民・行政の共有の財産であり、まちの価値を高めている。
- ▷もともとあるかごしまの空間の可能性と現在の若い世代の感性をミックスさせると新しいまちづくりの方向性が見えてくるのではないかな。



大学生による発表「かごしまの魅力を生かしたまちづくりへのアイデア」

グループ1 「コンパクトで暮らしやすい都市」



- ▷年代によって必要となる都市機能が異なるため、年代ごとにまちの中での配置を考えることが必要である。
- ▷中心部の充実だけでなく、周辺部のかごしまらしい資源を再認識し、活用することが重要である。
- ▷中心部と周辺部を行き来する公共交通は必須である。
- ▷中心部の充実には防災対策も一緒に考えなければならない。

グループ2 「誰もが快適で移動しやすい都市」



- ▷子どもでも高齢者でも、誰もが気軽に楽しく動ける都市を目指す。
- ▷バス停、バス路線の改善や自動運転の到来など「今あるものを生かす」取組と「20年後の未来を想定」したまちづくりを考えておくことが大切である。
- ▷短期的には、バス停等の環境改善や歩行を促すアプリの開発を進める。
- ▷将来的には、道路空間の再構築を含めた歩行空間のさらなる充実(居心地の良いバス停、道端のカフェ、自然のある道)などを進める。

グループ3 「人・自然・歴史・文化を生かした都市」



- ▷人口を維持し活気あるかごしまとするため、住み続けたいと思えるまちづくり、移住したいと思うまちづくりの両面が大切である。
- ▷幼少期から史跡や歴史に触れる機会を増やす。
- ▷大型商業施設に頼らない自然を生かした遊び場を増やす。
- ▷「観光のお客様声ボード」・「飲食店の英語版メニュー」を作成する。
- ▷今ある魅力を「人」と結び付け活用することが重要である。

シンポジウムで発表しました